

新にいがた

はしづめさんを必ず県議会へ

上越市で井上議員迎え演説会

2014年8月24日(日) 第1803号

発行所 新にいがた 長岡市曲新町1-12-14 ☎025(247)6366
毎月第4日曜日 定価150円(送料50円)1966年7月22日 第三種郵便物認可



激励に応える井上議員(右から2人目)、はしづめ候補、市議団＝1日、上越市

日本共産党上越地区委員会は1日、市内で井上さとし参院議員を迎え、演説会を開きました。いっせい地方選の県議選(上越市区Ⅱ定数5)で、はしづめ法一候補(党市議団長)をなんとしても県議会に送り出そうと、はしづめ候補の出身地・大島区からバスを仕立てるなど各地から続々参加し、会場一杯になりました。

井上議員は、集団的自衛権行使容認閣議決定以後、世論調査で安倍内閣支持が5割を切り、くらし、原発、TPPなどで暴走を続ける安倍政権に対し、国民の反撃が起こっていることを強調。「安倍政権打倒の国民的運動を起そう。日本共産党の躍進と、はしづめ候補の勝利で政治を変えよう」と訴えました。

はしづめ候補は「民生費全国最下位の県政を正し、隣の市の柏崎刈羽原発再稼働中止へ知事の姿勢を強めさせるためにも県議会で働きたい。ふるさとを、命。ふるさとのために活動するために、なんとしても県議会に送り出してください」と訴



宣伝で訴える、たけだ、しづや両候補＝15日、新潟市

えました。上野公悦地区委員長(市議)、平良木哲也市議も決意を述べました。参加した60代の女性は「井上さんの話は分

かりやすく、はしづめさんの話にも胸を打たれました。県議会に送り出すために一生懸命頑張りたいです」と話しました。

終戦日 戦争する国つくり許さない

たけだ、しづや県議候補が訴え

終戦記念日の15日、安倍政権を打倒しよう。日本共産党新潟県委員会は、新潟市のJR新潟駅前前で街頭宣伝を行いました。たけだ勝利、しづや明治両県議候補、大矢健吉副委員長らが参加。治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟県本部もビラ配布しました。

たけだ候補は「安倍政権は集団的自衛権行使容認閣議決定で、アメリカと海外で戦争する国づくりをしようとしており、断固反対」と訴えました。

しづや候補は「戦時中、教科書もノートもなく、おじと兄は戦死し、悲惨な体験をしました。今日は戦争を繰り返してはならないと誓う日。若者を戦場に送ってはならない。力を合わせて戦争する国づくりを阻止しよう」と訴えました。



活発に交流した討論集会＝2日、新潟市

を強調し

の重要な

関の活動

ない党機

先送りし

いからと

て、忙し

光を当

会活動に

も、後援

るため

につなげ

世代継承

を広げ、

を担い手

活動の日常化でいっせい選勝利を

県後援会が交流・討論集会

新潟県日本共産党後援会は2日、後援会活動の日常化でいっせい地方選挙に勝利しようとして、新潟市で「全県後援会活動交流、対話・討論集会」を開催し、30人が参加しました。

集会では6つの後援会の報告を受けて討論しました。新潟市西区後援会は、行政区党機関の指導援助の強化で県議選勝利へ頑張っている様子を報告。上越市くびき後援会は、地域の8割を超える世帯を会員に組織し、協力者を増やして後援会ネットワークの配布網を確立して新年会から花見、暑気払いなど年間4、5回、楽しい行事計画を100人以上の参加者で取り組んでいる活動を報告しました。

新潟市鳥屋野地域後援会は、後援会ニュースを毎月発行している編集者の苦労や後援会員への継続した働きかけを報告。新潟市山潟地域後援会、学者研究者後援会や文化愛好者後援会など分野別後援会からの発言も、どれも実践的悩みに応えるものでした。

集会の最後に発言した樋渡士自夫党県委員長は、会員の要求に応える多彩な活動が行われている後援会活動を普及すること、担い手を広げ、世代継承につなげるために、後援会活動に

世界の宝 9条を守り抜く

各地の宣伝・集会で共同 立ち上がる



若者を戦場に送ると唱和したデモ行進=7月27日、新潟市

青年9条の会

集会・デモで唱和

新潟県青年9条の会準備会は7月27日、新潟市で憲法や集団的自衛権について考えるつどいとデモ行進を行いました。25人が参加しました。6月に開催された全国若者憲法集会の報告のあと、若手弁護士鈴木麻理絵さんを講師に学びました。

鈴木さんは、1日の集団的自衛権行使容認閣議決定の問題点を

① 解釈で憲法を変えることは立憲主義に反して許されないこと

② 新3要件はあいまいで、「限定的」といつ

ても政府の都合のよい解釈で集団的自衛権が行使されてしまう

③ 抑止力というが、アメリカと日本がいつ

しよに戦争するようになればテロの標的にな

るのではないかと

4点を指摘しました。

最後に「閣議決定をうけて、このままではまずいのではないかと

いう声が大きくなって

いる。直感を大事にして、思ったことを声にしていくことはとても

大事なことです。戦前のように「戦争反対」と声をあげることでできな

くなる可能性もある。今日みたいな憲法を学ぶ会やデモ、友人といっしょに話をしていることが大事だと思

う」と訴えました。

参加した中国人の留学生は「初めて日本の憲法を勉強した。憲法を守るという気持ちがかかった」と話しました。他の人からも「分かりやすかったし、憲法を学びたいと思った。違憲である集団的自衛権行使は本当におかしい」「現在の憲法は国民を守る内容が十分に

あること、それが次々に改悪される危機的な状況にあることが分かりました」などの感想が寄せられました。

ついで終了後は、「若者憲法デモ@新潟」に取り組みました。太鼓やマラカスなどの鳴り物のリズムにあわせて、「憲法守れ」「集団的自衛権はいらない」「若者を戦場に送るな」「母ちゃん泣かせるな」などとコールしながら新潟駅まで歩きました。

新潟大学9条の会

賛同213人発表

新潟大学9条の会は5日、県庁で記者会見し、会が呼びかけた安倍内閣の集団的自衛権行使容認の解釈変更による憲法破壊に反対するアピールに、現職と退職教職員あわせ213人が賛同を寄せたと発表しました。

発表には、石崎誠也代表(新潟大学法科大学院教授)、森田龍義、谷本盛光両名誉教授、小西博巳教授が参加しました。

賛同したのは現職151人、退職者62人で、ほとんどが教員です。

石崎氏は、「閣議決定後作業に入り、1カ月でこれだけ賛同者が

集まった。9条は人類史上の到達点であり、世界にその意義を示していきたい」と強調。

森田氏も「戦後平和な時代を享受し、研究に没頭できたのも憲法のおかげ。交流ある外国人に誇りを持って語ることが出来る。さらに大学内に広め、学生にも呼びかけたい」と語りました。

秘密保護法撤廃

会が意見呼びかけ

秘密保護法の政令と運用基準案に対するパブリックコメント(意見公募)の締め切り(24日)が迫っていることから、秘密保護法に反対する新潟の会は18

秘密保護法撤廃

会が意見呼びかけ

署名した50代の女性は「安倍首相は戦争をしたかと思っ

ていないか。憲法の解釈を変えるのはとんでもない」と話しまし

た。60代の女性は「安倍首相は人の気持ち

が分からない人です。多くの人を振り回して怒りを感じて

います」と語りまし

た。



次々署名が寄せられた宣伝=18日、新潟市

日、新潟市で反対の意見応募を呼びかける街頭宣伝を行いました。齋藤裕、土屋俊幸、金子修の各弁護士が訴えました。

署名機が出され、運用基準案では特定秘密の指定が恣意的になされる恐れがあり、国民の知らないうちに集団的自衛権行使の計画が立てられ、国民の知らない間に戦争になってしまおうとして、秘密保護法の廃止を求める意見書が用意されました。賛同する市民から次々署名が寄せられました。

署名した50代の女性は「安倍首相は戦争をしたかと思っ

集団的自衛権行使許さない 安倍政権打倒の国民的大運動を



真剣に訴える看護師たち=7月18日、新潟市

戦場の血で汚さない 医労連白衣の行動

新潟県医労連は7月18日、新潟市で「白衣の平和行動」に取り組み、約40人が参加しました。憲法を守り、秘密保護法廃止、集団的自衛権行使容認閣議決定撤回、核兵器禁止国際条約交渉開始などで宣伝・署名を訴えました。そろいのエプロンとスカーフをつけた看護師らが交代で「私たちは従軍看護婦の悲劇を繰り返さない、再び戦場の血で白衣を汚さないという誓いを胸に『戦争反対』『いのちと暮

らし守れ』とアピールしてきました。安倍政権は憲法9条を壊し、戦争できる国づくりに突き進んでいます。「集団的自衛権行使とは、日本が攻撃されていないのに、アメリカなどの戦争に自衛隊を参戦させ、戦場で殺し、殺される国になることです」と訴えました。署名した竹内勇雄さん(75)は「一内閣の判断で解釈改憲するなんてとんでもない。集団的自衛権行使容認は戦争の準備をするようなもので絶対認められない」と怒りました。60代の女性は「9条があったから日本の平



和が守られてきた。安倍首相はあまりにも軽く考えている。このままでは大変なことになる。止めなくてはいけない」と話しました。初めて参加した勤労者医療協会下越歯科診療所の大角理沙さん(22)は「はじめは戸惑いもありましたが、戦争はしてはならない、悲劇を繰り返してはならないという気持ちで一生涯懸命訴えました。皆さん、真剣に署名に応じてくれてよかったです」と語りました。

秋葉区9条の会 初の共同宣伝

新潟市秋葉区9条の会と平和憲法を守る新津・小須戸ネットワーク(戦争をさせない1000人委員会参加)

6日、JR新津駅前で25人が参加して、共同の宣伝行動を行いました。両団体は、安倍政権が集団的自衛権行使容認の閣議決定をする危険な情勢になったことから、これを阻止するために共同を強めようと一致し、ピラツクリなど準備を重ね、初めての共同行動となりました。

元気をもらった。また宣伝をやりたい。秋の臨時国会頃には、大規模な集会を共同で開くことを検討している」と語りました。

小池市長訴え

加茂9条の会集い

加茂市の加茂九条の会は3日、結成6周年の講演とコンサートのつどいを開きました。会顧問の小池清彦市長があいさつし、五十嵐仁元法政大学教授が講演、音楽もあり、350人が参加しました。

鶴巻大陸代表が、安倍内閣の集団的自衛権行使容認による戦争への国づくりを許さない運動を強めていく緊急性を訴えました。五十嵐氏は、通常国会での関連法案の改定阻止、いっせい選挙で与党を敗北させること、閣議決定の是非を問う裁判闘争を指摘し、安倍内閣を解散・総選挙に追い込み、世界の宝・9条を守り広げていくことを訴えました。

「歌も演奏も素晴らしかった。子や孫、未来の地球のために安倍政権にはやめてもらいましょう」などの感想がありました。

改革の波紋

介護保険

党新潟市議団シンポジウム



会場いっぱいになったシンポジウム＝7月26日、新潟市

日本共産党新潟市議団は7月26日、市内で「医療・介護総合法で私たちのくらしはどうなる、人権としての介護保険の実現をめざすシンポジウム」を開きました。関心の高さから会場いっぱい、150人以上が参加しました。党市議団は、介護事業所への事前アンケートやシンポの案内に取り組み、初めての参加者が目立ちました。基調講演した林泰則全日本民医連事務局次

長は、強行可決された医療・介護総合法の介護保険制度改悪では、①市町村への丸投げによる要支援者の訪問介護、通所介護の削減・打ち切り②特養ホーム入所対象を要介護3以上に限定③一定以上所得者の利用料引き上げ④補足給付の見直し⑤の4つの切り捨てを指摘。「改正」介護保険法(総合法)の内容を知れば知るほど国民の怒りが広がっており、自治体を制度改悪の「防波堤」に

し、高齢者の生活と権利を公的に保障することや、介護問題をいっせいで争点にする重要性を強調しました。現場からの報告として、ケアプランひだまりの仲川寛子さんが、日中一人で過ごす認知症やうつ病状態の高齢者の事例を紹介しながら、要支援者の訪問介護の保険給付はずしの問題を指摘。特養ホームあしぬま荘の川瀬裕園長は、昨年度の訪問介護利用者の39%が要支援者であることから保険給付はずしの不安を述べました。特養ホーム生活相談員の中村麻子さんは、遺族年金やタンス預金を例に、所得状況により負担増や介護サービスが減らされる問題を指摘しました。市議団の五十嵐完二幹事長は、自治体を防波堤にするため、サービス確保を求める運動を強めていくことを呼びかけました。参加者から「改悪法は知れば知るほど怒りがこみ上げてくる。人間を大事にする思想に欠ける政府の転換をはかる政治改革が求められます」「共産党さんが、皆のために一生懸命考えてくださることに心から感謝申し上げます」などの感想が寄せられました。

全員が水俣病特措法での救済者

異議申し立てで陳述

新潟水俣病被害者が、水俣病特別措置法で非該当となった判定結果に納得いかないと県知事に提出している異議申し立て(県全体で92件)について8日、県庁で意見陳述が行われました。

民医連沼垂診療所の関川智子医師の診断による申立人22人(全体で43人)が、代理人の弁護士や支援者と共に陳述に参加しました。特措法での非該当理由となった「メチル水銀で汚染された阿賀野川の川魚の喫食歴によるもの(疫学要件不備)」



「新潟大学病院等での所見不十分によるもの(症候要件不備)」に対して、代理人の新潟水俣病訴訟弁護団の弁護士は、これまでの新潟水俣病裁判闘争の理論的蓄積と最近の最高裁判決等を踏まえて、異議申立人全員が特措法での救済対象者であることを聴取者である県に陳述しました。申立人を代表して陳述した石井健生さん(71、新潟市北区在住)は「すでに亡くなった父は新潟水俣病を引き起こした昭和電工に勤めていた。父も手足のしびれ等の水俣病の症状があっても、家族には全く話さなかった。私は子供の頃から川魚を食べていた。30歳頃から手足のしびれを感じ、その後耳鳴り、けいれんがひどくなり、耳も聞こえなくなり、自分も沼垂診療所の関川先生の診断で水俣病であると確信している。申立者全員が審理で認められて補償を受けたいと訴えました。70歳の女性の申立人は「同じ魚を食べた母や5人の姉妹全員が認められたのに、自分だけが認められなかったのは納得いかない。加害企業や国に怒りを感じ、悲しくなる。認められるまであきらめないと涙ながらに陳述しました。」

社会医療法人 新潟勤労者医療協会

理事長・高橋常彦	〒956-0814	新潟市秋葉区東金沢1459-1	Tel.0250(24)5170
下越病院	〒956-0814	新潟市秋葉区東金沢1459-1	Tel.0250-22-4711
舟江診療所	〒951-8011	新潟市中央区入船町3-3629-1	Tel.025-229-3588
介護老人保健施設入舟	〒951-8011	新潟市中央区入船町3-3629-1	Tel.025-229-3588
沼垂診療所	〒950-0075	新潟市中央区沼垂東6-4-12	Tel.025-244-0116
坂井輪診療所	〒950-2054	新潟市西区寺尾東3-8-35	Tel.025-269-6630
おぎの里	〒956-0012	新潟市秋葉区荻野町3-8	Tel.0250-25-3071
ときわ診療所	〒950-0036	新潟市東区空港西1-15-17	Tel.025-274-2714
かえつクリニック	〒956-0836	新潟市秋葉区田家2-1-30	Tel.0250-22-5888
下越鍼灸施術所	〒956-0837	新潟市秋葉区吉岡町18-26	Tel.0250-23-3347
かえつ歯科	〒956-0831	新潟市秋葉区中沢町1-25	Tel.0250-25-5510

地方政治と住民運動の専門誌

「手造り人形の家「友遊」の人形たち⑩」八月十五日 敗戦記念の日、私は二人の叔母を追悼してこの絵を描いた。二人は終戦前、三人の幼児を抱えて夫が戦死、「戦争未亡人」といわれた。(高橋正之)

議会と自治体 月刊